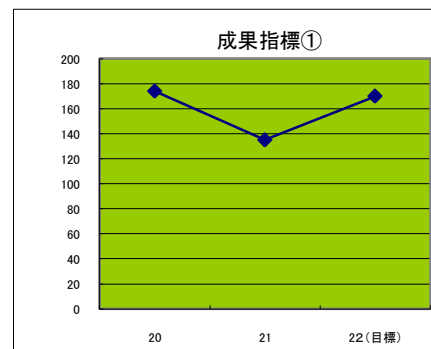
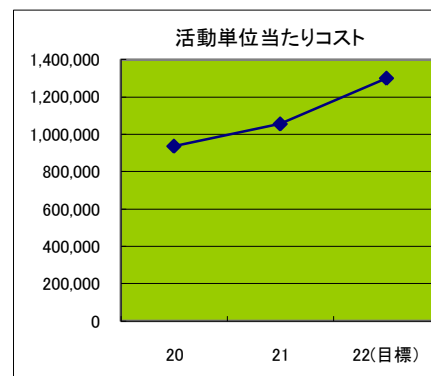


事務事業名		戦没者追悼式助成事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	3	民生費
					項	1	社会福祉費
					目	2	社会福祉事業費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	事業	5	社会福祉対策	
	施策(節)	2	地域福祉				
	施策の方向	(2)	地域における福祉サービスの適切な利用の促進				
関連する計画等				作成部署 保健福祉部福祉総務課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先 072 - 958 - 1111 内線 1121			
	戦死者						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	追悼の意を表する慰霊祭を実施する。						
	先の大戦でなくなられた方を慰霊し、平和への祈念を目的とする追悼式を開催するため、主催の団体に報償費として支出している。						
根拠法令等							
事業開始時期		☒ 昭和 40 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている			終了年度 平成 年度		
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望		団体からは、補助金の継続を求める意見が出ている。					
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他			委託内容		

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		786	905	1,000
人件費【2】 (千円)		150	150	300
職員数	正規職員	0.02 人	0.02 人	0.04 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		936	1,055	1,300
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	936	1,055	1,300
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 実施開催回数	回	1	1	1
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		936,000 円	1,055,000 円	1,300,000 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		8 円	9 円	11 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度
	①	(式)	人	できるだけ多くの参加者があることが目標である。	目標	170	180	達成率(%)	170
					実績	174	135	75.0%	
	②	(式)			目標			達成率(%)	
					実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	本来市が実施する事業であるが、遺族会により実施している。
						○					

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☐	☒	☐	実施主体は、市・遺族会など自治体によって違うが、追悼式は必要であるとの認識はひろく存在している。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	参加者より会費も徴収しており、適切である。
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	目的は戦没者の追悼であり、明確である。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☐	☒	☐	
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☒	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	遺族の減少があるなか、参加者は維持できている。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	追悼式を開催することで戦没者を慰霊し、追悼することで戦争で失われた尊い命に大切さを広く市民に知らせることができ、今後このような戦争を二度と起こすことのないよう誓いを新たに必要がある。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	戦没者遺族の高齢化が進み、遺族範囲が広がる中、遺族会と連携しつつ式典の実施方法等についても検討していく必要があると思われる。	

行 事 本 部 評 価	総合評価		評価理由・意見
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善		
	☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了		